



Flash News

三重大学

第65号

目次

- 独立大学院「地域イノベーション学研究科」の設置について
- 三重大学リサーチセンターがスタート
- 三重大学長特別表彰式・講演会開催「独りぼっちの木の根運動－OのないNGO－」
- 先端医療開発特区（スーパー特区）に採択
- 和歌山大学と連携協議会および研究発表会を開催
- 附属中学校と天津市実験中学との交流
- 大紀町と相互友好協力協定締結
- 「事務局避難訓練」を実施
- 「青少年のための科学の祭典」第6回三重大学大会
- 教育改善研究会（第5回全学FD）
- 「院内防火訓練」を実施！
- 「第2回三重大学学内駅伝大会」を開催
- 医学部附属病院長選出
- 生物資源学研究科長選出

独立大学院「地域イノベーション学研究科」の設置について

本学では平成21年4月より、新しい大学院として独立大学院「地域イノベーション学研究科」（博士前期課程・後期課程）を開設することとなりました。これは、本学が来春の開設を目指し文部科学省に設置申請を行い、12月24日に設置「可」の通知を受け決定されたものです。本研究科は、「三重地域圏を中心とする産業界と連携しながら地域社会の将来を担う中核人材を育成すること」と「地域企業が抱える成長障害要因を克服するための学際研究を地域産業界との連携で実行すること」を教育・研究の理念として掲げており、全国の国立大学の中でも新しい取り組みである産業界が求める即戦力型人材、「プロジェクト・マネジメントができる研究開発系人材」を育成することに特徴があります。

三重大学リサーチセンターがスタート

本学では、この7月より三重大学リサーチセンター制度の運用を開始しました。本センターは既存の研究室の枠にとられずに、最終ターゲットを共有する異分野の研究者が集まり、独創的な研究の創出を目指すグループです。本学ではこのリサーチセンターを核として、研究の更なる活性化、先端研究の拠点化、地域イノベーションの推進が図られることを期待しています。現在までに、「三重大学次世代型電池開発センター」「三重大学疾患ゲム研究センター」「三重大学極限ナノエレクトロニクスセンター」「三重大学コネクタ工学研究センター」「三重大学地域情報化リサーチセンター」が開設されています。詳しくは、<http://www.mie-u.ac.jp/research/> をご覧下さい。

三重大学長特別表彰式・講演会開催「独りぼっちの木の根運動－OのないNGO－」



梅林正直名誉教授

12月2日、平成20年度外務大臣表彰を受賞した梅林正直名誉教授に対して、長年にわたるタイ北部山岳地域での植樹ボランティア活動の功績を讃えて、豊田長康学長から学長特別表彰を行い、表彰状および記念品を贈呈しました。その後の講演会で梅林氏は、「自分の頭と体とお金を使って汗を流すのがボランティアの原点であり、大切なのは『志』を『伝え遺して』いくことが未来の世代への『遺伝志』となる」また、「活動をやりたいという若者にハントッチをする日まで、体の続く限り頑張りたい」と熱く語られ、集まった200余名の学生や教職員から大きな惜しめない拍手が送られました。

先端医療開発特区（スーパー特区）に採択

内閣府が公募した標記スーパー特区に本学の「複合がんワクチンの戦略的開発研究」（代表者：珠玖洋）が採択されました。これは本学が中心となり、97がティア15企業が連携し有効ながんワクチンを開発し、実用化を目指すプロジェクトです。各ティア企業が保有するエークで有用性の高いシーズである、がんワクチン、免疫効果増強技術、免疫応答評価技術を組み合わせ、実証するプラットフォームを構築します。本スーパー特区では、規制当局との意見交換や柔軟な資金運用により迅速で効率的ながんワクチンの開発が期待されています。

和歌山大学と連携協議会および研究発表会を開催

12月5日、和歌山大学において、標記協議会および研究発表会が開催されました。発表会では、豊田長康学長と小田章和歌山大学長から紀伊半島研究の重要性について表明があり、菅原洋一教授による研究概要説明に続き、本学（生物資源学研究科：船岡正光教授、原田泰志教授 工学研究科：前田太佳夫教授、川口淳准教授）と和歌山大の10グループによる研究発表が行われました。また、両大学の役員による連携協議会では、教員免許状更新講習での協力関係の構築、留学生30万人計画への対応、学生・教職員のメンタルヘルスケア、および次期中期目標での機能別分化に関する情報や意見の交換が行われ、有意義な協議会となりました。

附属中学校と天津市実験中学との交流

11月12日～17日の間、附属中学校は、交流の覚書を交わしている天津市実験中学（天津師範大学附属中学）の訪問団（教員10名）を迎えました。一行は、13日に講堂で行われた附属中学校の文化祭「附中のハーモニー」に参加、14日には、附属中学校の起業家教育（第2学年）を含む授業見学と授業や生徒の学校生活、教員の勤務、学校の行事などについて意見交換を行いました。その他、三重県中学生ロボットコンテストの参観、京都見学など、附属中学校の教員、生徒、育友会（PTA）との交流を深めました。



大紀町と相互友好協力協定締結



11月28日、生物資源学研究科は農林水産業の振興や学術、防災などの分野で連携を深めるため、大紀町と相互友好協力協定を締結しました。今後、協議会を立ち上げ、現在進めている地域防災の取り組みをはじめ、特産品の開発や獣害対策、水産資源の確保、環境教育など多くの分野で現地とタイアップした地域密着型の研究を計画していきます。農林水産業をはじめ多くの分野の専門教員を擁する本研究科が協定を結ぶことにより、大紀町の総合的な地域振興に貢献したいと考えています。

「事務局避難訓練」を実施

11月28日、事務局3階から出火したとの想定で、避難訓練が実施されました。今回の避難訓練では、火災発生時における通報・初期消火訓練のほか、屋外階段を利用した避難が実施され、屋外へ避難後は、消火器による消火訓練と屋内消火栓を使用した放水訓練が実施されました。また、津北消防署のご協力により今回はじめて煙体験ハウスを設置し、体験した参加者は「思った以上に視界が効かない。」と煙の恐ろしさを改めて実感した様子でした。今回の避難訓練を通じて、職員の防火意識をさらに向上させることができました。



「青少年のための科学の祭典」第6回三重大学大会



11月29日～30日、標記大会が講堂で開催されました。科学実験や工作などの出展ブース33のうち、今年は高校からの出展もあり、高校生が子どもたちに科学の面白さを伝えていました。また、昨年度からはじめた、三重大学と中部電力の共催による「サイエンス on ステージ」も同時開催し、2日間で7つのショーが「科学の達人」により演じられ、大ホールは子どもたちの歓声に包まれていました。開催中は、好天にも恵まれ、2日間の参加者はのべ3,000名を超えました。

教育改善研究会（第5回全学FD）

12月3日、参加者全員が意見を出し合う参加型の標記研究会を開催しました。研究会では、愛媛大学教育・学生支援機構教育企画室の佐藤浩章准教授より、「教育系外部資金の申請書の書き方講座」という演題のもと、愛媛大学と本学の事例を交えながら、教育系外部資金獲得のために必要な教育プログラムの要素についての説明がありました。愛媛大学で活発にFDを実施されている佐藤准教授のセミナーの進行法についても、学ぶところが多く、たいへん実りのある研修会となりました。

「院内防火訓練」を実施！

12月4日、附属病院で病棟からの出火を想定した防火訓練を実施しました。患者役の職員を誘導して避難する際に、今回初めて導入された寝たきりの患者を楽に搬送できる救護担架が階段や廊下の移動に大活躍しました。また、津市消防署から消火栓・消火器の使用方法について指導があり、実際に職員が体験しました。これからは火災だけでなく、地震などいざという時がいつ起こるか分かりません。いざという時に病院としてしっかり対応できるよう、火災に対する備えを再確認し、災害に対する意識と知識を高めることができました。



「第2回三重大学学内駅伝大会」を開催

12月6日、昨年復活した生物資源学部走ろう会、トライアスロン部、大学生協による標記大会（取出伸夫実行委員長）が開催されました。今回は、研究室、サークル、職場、地元の小中学校などから、昨年の2倍近い44チーム318名の参加がありました。日頃のトレーニングの成果を発揮、健康増進のためのきっかけづくり、職場の親睦など、参加動機はいろいろでしたが、1周2.5キロのコースを7周し、皆で気持ちの良い汗を流しました。来年もまた同じ時期に開催する予定です。



医学部附属病院長選出

附属病院では次期病院長に竹田寛副病院長が選出されました。任期は2009年4月1日から4年間です。

生物資源学研究科長選出

生物資源学研究科では、田中晶善教授を研究科長に再任しました。任期は、2009年4月1日より2年間です。

投稿のお願い

各種事項（大学教育・研究、地域連携、国際交流、学内事業等）に関するフレッシュなニュース提供をお待ちしています。

小林英雄 (kobayashi@mie-u.ac.jp) または 井上真理子 (mariko-i@ab.mie-u.ac.jp) まで。場合によっては、取材に向きます。

《フラッシュニュースのバックナンバーは、三重大学ホームページで (<http://www.mie-u.ac.jp>) ご覧いただけます。》編集責任者/理事・事務局長 三浦春政

